

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誇りと喜びを持てる学校 ～明るく、元気に、そしてあきらめない心をたいせつに～
友だちを大切にする子ども
勉強やスポーツに一生懸命取り組む子ども
自分の目標に向かいあきらめないでチャレンジを続ける子どもに育てたい

1. 安全で安心して生活できる学校
(体罰防止、いじめ防止、人権擁護、防災対策の充実・推進および感染症等予防等)
2. 学力の保障と向上に取り組む(高等学校教育、大学教育へつなげる学力の育成)
3. 多様な就学・進路選択と指導支援を行う
幼稚部、小学部卒業後の進路選択に関する支援
中学部卒業後も、普通高校、聴覚支援学校高等部、聴覚高等支援学校など幅広い進路の支援
4. いくの聴覚言語支援センター(I-DIC アイ・ディック)で地域支援、保護者支援の充実を図る
5. ICT(情報端末タブレット等)を活用した情報保障と学力保障および校内視覚情報放送の模索
6. 一人ひとりの子どもを大切に、しっかりと聴覚障がい教育の指導・支援ができる教員の育成
7. 教育コミュニティ(地域)づくりの推進と充実

2 中期的目標

- 1、安全で安心して生活できる学校
 - 1) 体罰防止委員会を推進し、教員の日常の教育活動の問い直しを図り、体罰根絶に取り組む。
 - 2) いじめ対策委員会を設置し、人権意識の向上を図る。
 - 3) 防災対策の充実と安全管理
 - ① 防災対策委員会の活性化(全員参加の防災対策)
作業部会を検討推進していく
 - ② 情報保障システムならびに緊急警報システムの充実整備と活用の検討
 - ③ PTAの防災対策委員会との連携、地域社会との連携などの推進
 - ④ 熱中症、感染症への安全対策
 - ⑤ 防犯・防災訓練、防犯・防災学習の推進
 - 4) 教育コミュニティづくりの推進(地域交流、地域連携づくり)
IKUNOネイチャークラブ活動の推進(どうぶつしょうぎ、よんろのご、音楽遊び、ふれあい動物園等)
- 2、聴覚障がい教育の専門性向上(教員の資質向上および人材の育成)
 - 1) 授業研究、校内研究会を推進し外部研究会、研修会への積極的参加する等、専門性の高い人材を育成する
 - 2) 教員間で授業研究、日常的な研修・研鑽等を進め授業力を高める。
- 3 早期乳幼児の保護者支援の充実と整備
いくの聴覚言語支援センター(I-DIC アイ・ディック)を充実させ、難聴乳幼児保護者への支援活動の体制を整備再編し充実させる。
- 4、学力保障および学力向上
 - 1) ICT(校内LANの構築)を整備・活用し、視覚優位の「見てわかる授業」づくりを推進する。
幼児児童生徒の「見る」「触る(触れる)」「書く」「描く」「手作業」「実物での経験」等の直接体験を大切にしながら、聴覚障がい教育の基本である視覚手掛かりをICT機器の整備・活用で充実させる
 - 2) 幼児児童生徒の学習意欲を向上させる 外部コンクール、各種検定、校内検定等を活用し、子どもの学習意欲を育成する
 - 3) 読書活動の活性化 蔵書数を増やす「読みたい本」と「読ませたい本」を充実させる
 - 4) 多様な進路選択を指導支援
- 5 視覚情報システムの構築
聴覚障がい児学校における情報保障、校内放送システムの整備・構築

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・今年度より小学部低学年も含め、全児童・生徒を対象として実施した。</p> <p>○小学部児童 肯定的な回答ポイント80%以上は「学校に行くのは楽しい」97% 「行事は楽しく参加できる」97% 「仲のよい友だちがいる」96% 「給食の時間は楽しい」91% 「先生はみんなが仲良くできるように気を配ってくれている」91%の5項目であった。A回答だけで60%を越えた項目が13項目中6項目あり、学校生活全般を楽しく過ごせていることが伺える。</p> <p>○中学部生徒 肯定的な回答ポイント80%以上は「仲の良い友だちがいる」85% 「地震や火災・・・わかりやすく知らされている」81% 肯定的な回答ポイントが30%以上の項目は8項目あった。ただし、今回は診断項目の全体構成を6割ほど変更したことから、単独項目での前回比較は慎重に結果考察すべきであり、次年度以降の項目全体の継続比較が待たれるものである。</p> <p>○保護者全体 肯定率が10ポイント上がった項目は「学校は子どもの課題にあった授業をしている」91%であった。肯定率が10ポイント以上下がった項目は「学校は体罰防止に取り組んでいる」81% 「学校はいじめの防止等人権尊重に基づいた教育を行っている」71%であった。これは各部一丸となり学校全体で回復をめざさなければならない項目である。体罰防止、人権尊重やいじめ防止の取り組みを押しすすめていく。</p>	<p>【第1回】H26年7月10日(木)</p> <p>○関係機関と連携した防災教育の必要性。図書利用の充実、専門性の向上への取り組みの継続</p> <p>○同僚への相談支援、危機管理体制の構築。部主事と管理職の日常的な連絡体制の充実、管理職が職員室にいることの必要性。PTAの協力等を継続。</p> <p>【第2回】H26年11月27日(木)</p> <p>○校内でのICT機器による情報保障を進めることが必要。</p> <p>○学校の教育活動などの状況について、保護者への情報提供が一層求められている。</p> <p>○学校教育自己診断の結果について、当該学部の問題としてだけ捉えるのではなく、学校全体として改善していくことが必要。</p> <p>○保護者や地域、外部機関との連携を要として策を考えることが重要。</p> <p>【第3回】H27年2月10日(火)</p> <p>学校教育自己診断の結果分析を受けて○子どもが教員に相談できるようにするためには、子ども達に「相談できる力」を付けていくことが重要。</p> <p>○保護者への情報提供は、伝わりにくいことを前提に有効な伝達手段を検討する必要がある。</p> <p>○幼少中の子ども達の交流が少なく、心の成長が育みにくい。合同の運動会やクラブ活動(中学部)への小学生参加を検討してはどうか。</p> <p>○まとめとして～「交流」がキーワード～</p> <p>・小規模校の良さ、利点を積極的に生かし、学部間交流を活性化させることが重要。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
安全で安心して生活できる学校	<p>子どもにとって安心安全な学校づくり</p> <p>体罰防止、いじめ防止など人権侵害に関して教員の意識の向上と、日々の取り組みの充実</p> <p>地震・津波対策</p> <p>情報保障の徹底</p> <p>地域社会との連携</p> <p>防犯対策</p> <p>感染症・熱中症</p> <p>学校組織の充実</p>	<p><u>体罰防止対策の推進・いじめ防止対策の推進</u> 体罰防止委員会の活動の充実 いじめ対策委員会を設置、推進 人権研修の企画実施、日々の教育活動の見直し（問い返し） ・体罰防止委員会を中心にして①事例検討研修②体験型人権研修 ③ロールプレー型研修④生徒指導力の向上</p> <p><u>防災対策の推進</u> 1) 作業部会を設置 ① 登下校中；各家庭との密接な連携をとる ② 学校在校中；より具体的・実際的な避難訓練 ③ 防災教育；難聴児へのリーフレットづくりなど 2) 聴力障がい者への緊急情報保障の検討 ① 文字情報、手話放送 ② 地域聴覚障がい者への情報発信の拠点づくり</p> <p><u>教育コミュニティーづくり</u> 地域交流、地域貢献などの地域との連携 IKUNO ネイチャークラブの推進 （どうぶつしょうぎ、よんろのご、音楽あそび、ふれあい動物園）</p> <p><u>防犯教育の推進</u> 幼稚園、小学部、中学部の子どもに合わせた防犯教育</p> <p><u>感染症、食中毒、熱中症等への対策づくり</u> 手洗い・うがいの励行 安全な給食を目指す 熱中症対策（水分補給、情報共有、保健室との連携等）</p> <p><u>分掌の改編による機能的な組織づくりを行う</u> 各分掌の役割を明確にし、機能的な分掌の体制を整える。</p>	<p>・定期的に学年会での振り返りとその報告（月1回）</p> <p>・体罰やセクハラ届出票の設置の継続</p> <p>・職員がチェックを活用（年2回）</p> <p>・保護者の意見を情報共有し取り組みに反映する。</p> <p>・体罰研修・人権研修の実施（4回）（いじめ防止の研修を含む）</p> <p>・防災対策委員会で成果物（ヘルプミーカード、通学途上避難先リスト、備蓄品、避難袋常備）</p> <p>・地域防災組織との連携</p> <p>・IKUNO ネイチャーランドの実施（保護者と教員で運営）</p> <p>・警察と連携した各部防犯教育</p> <p>・エピペンについての講習会の実施</p> <p>・緊急時の体制の見直し</p> <p>・運営委員会で検討を進める。（毎月1回）</p>	<p>・体罰防止委員会で各部の振り返りと報告、情報共有（毎月1回）を行ったが課題があった。組織体制等の充実を図る。（△）</p> <p>・体罰やセクハラ届出票を継続（○）</p> <p>・体罰研修・人権研修（3回）の実施。内容の充実により成果があった（○）</p> <p>・防災対策委員会成果物（ヘルメット、備蓄品の整備、電話お願い手帳）（○）</p> <p>・地域防災組織との連携は進行途中（△）</p> <p>・IKUNO ネイチャーランドの実施（12月）（○）</p> <p>・警察との連携 交通安全教室（4回）、薬物乱用防止教室等（○）</p> <p>・エピペン使用時緊急体制の見直しを行った。（○）</p> <p>・運営委員会を活性化し毎月1回、11回実施（○）</p>
	専門性向上	<p><u>教員の資質向上</u></p> <p><u>コンピュータや校内LANを活用した学習の推進</u></p> <p><u>日々の学習の充実</u></p> <p>・一人ひとりの基礎基本の学力育成</p> <p>・高校、大学につながる学力育成</p> <p><u>図書活動、読書活動の推進</u></p> <p>・本の好きな子どもに育てる</p>	<p><u>教員の専門性・資質の向上</u> （授業力、専門指導力）</p> <p>1) 授業研究の活発化（研究授業、公開授業） 専門的指導（発音指導、聴能指導、言語指導） 教科指導の力量向上をめざす</p> <p>2) 全校研究会の推進 各部共通課題（聴覚障害教育、保護者支援等）を研究</p> <p>3) 外部研究会・研修会の積極的参加 教育センター、普通小中学校の教科研等参加</p> <p>4) 26年度全日聾研究会（兵庫大会）自立活動での運営と参加</p> <p><u>学力向上</u></p> <p>1) タブレット等を活用した授業の展開</p> <p>2) 校内LANを活用した学習等の授業の推進</p> <p>3) 外部模試、漢字検定、英語検定等の活用</p> <p>4) 朝学習や長期休み中の補習・補充等</p> <p>5) 幼稚園、小学部卒業時、中学部入学時からの進路指導</p> <p>6) 各部に応じたキャリア教育への取り組み</p> <p><u>聴覚言語支援センター</u></p> <p>いくの聴覚言語支援センターの充実</p> <p>・乳幼児の保護者支援の検討と実施</p> <p>・市町村福祉部との連携 乳児相談、補聴器相談、各種検査を充実させる</p> <p>・病院、保健所との連携推進</p> <p>・通級指導の充実</p> <p><u>生活指導・生徒指導の充実</u></p> <p>1) クラブ活動を通して自発性を伸ばす</p> <p>2) 問題行動には学年で情報共有、検討し対応していく</p> <p>3) 道徳教育、キャリア教育の推進</p> <p><u>読書活動の充実</u></p> <p>1) 図書館活動の活性化と環境充実 ① 蔵書数増（読みたい本、読ませたい本を増やす） ② 図書ボランティアの活用（毎日開館）</p> <p>2) 各部、各学年での読書運動の推進</p> <p>3) 読書感想文コンクール等へ積極的な応募</p>	<p>・研究授業や公開授業を活発化し、教員達が相互に研鑽し合える授業作り（研究授業実施）</p> <p>・外部研究会での研究発表</p> <p>・全校から担当者を選抜し参加。成果を伝達講習する。（各部）</p> <p>・タブレットを用いた学習の教員のスキルを高める研修会を実施（ICT 教育部の研究授業）</p> <p>・各種コンクール等の外部評価へ応募</p> <p>・全国合奏コンクール入賞をめざす</p> <p>・学校見学、体験学習、説明会を適宜実施し情報を発信する（各部）</p> <p>・乳幼児相談者の「個別の支援計画」を作成し適切な市町村を紹介する。</p> <p>・就学前教育相談の取り組みを検討し実施（体験保育5、6回、子育て講座等毎月テーマ設定）</p> <p>・校内支援の充実</p> <p>・保健所訪問を行う（年15か所以上）</p> <p>・ボランティア活動、あいさつ運動の継続</p> <p>・学年での話し合い活動の継続（毎週時間設定）</p> <p>・図書貸し出し数の増加（1.5倍）</p>
学力向上		<p><u>学力向上にタブレットPCを活用する</u></p> <p>学力向上と情報保障</p>	<p><u>校内無線システムによるタブレットPCの活用で学力向上を図る</u></p> <p>1) 各部、各学年で教員のタブレットPC活用のスキルをあげる研修をICT教育部が中心になって取り組む。</p> <p>2) テーマを学力向上に設定している研究部と連携して研究授業、公開授業等を開催する。</p> <p>3) 幼児児童生徒ならびに保護者、職員への情報保障の充実を検討する。</p> <p>4) 構築した情報システムを学習に活用 タブレットやモニター、電子黒板等を活用</p> <p>視覚情報ツールとしての活用を探る。（緊急放送）</p>	<p>・教員のタブレットPC活用のスキルを高める研修会を実施（研究授業に活用）活用できる教員を育成する。</p> <p>・タブレットPCの教材づくり共有化</p> <p>・児童生徒への指導事例の検討</p> <p>・事務室横のプロジェクターの活用</p>